

はじめに

東日本大震災津波の発災から 5 年が経過し、漁船、養殖施設等の復旧はほぼ完成したものの、未だに応急仮設住宅等に 1 万 6 千人以上の方が暮らしておりますが(平成 28 年 9 月 30 日現在)、多くの皆様から御支援をいただきながら、力強く復興へ進んでおります。

さて、平成 27 年漁期には、岩手県の主要魚種であるサケの漁獲量が約 9,500 t と前年の 6 割程度に、また、サンマも漁場が沖合いにあり、単価は高かったものの、漁獲量は前年の半分以下の約 20,000 t であり、漁業者のみならず、地元の水産加工業者にも厳しい年でした。

一方、養殖ワカメの生産量は約 15,000 t (県漁連共販) と前年並みの生産量を維持し、価格も前年よりは良く推移しました。アワビも前年の 1 割り増しの約 290 t (県漁連共販) 水揚げされ、少しは浜に活気が戻ってきた気がします。

近頃の海況は、昭和年代には 10 年に一度と言われた異常冷水が、頻繁に接岸し、その後急激に水温が上昇する傾向があり、放流後のサケ稚魚、アワビ資源量、海藻等々に大きな影響を与えていているものと推測されます。

このような中、当センターでは、「築こう魅力あるいわての水産！心一つに技術で支援」をキヤッチフレーズの下、各種モニタリング、技術開発、情報発信等々で水産業の復旧・復興を支援して参りました。

今後も、現場主義を貫き、関係者の御意見御要望を取り入れながら、他の研究機関と連携しつつ、本県水産業を担う漁業者、水産加工業者の着実な復興、更なる発展へ、技術支援を推進して参りたいと思います。

平成 28 年 11 月

岩手県水産技術センター所長

煙山 彰